

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600426		
法人名	杉友商事(株)		
事業所名	グループホームふれんど 3F		
所在地	愛知県名古屋市天白区原一丁目2006		
自己評価作成日	平成23年度12月26日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所 株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス併設のユニットとなっており、認知症の状態は様々だが、それぞれの利用者様ができることに関わって頂いている。歌や体操など全員参加で取り組むメニューと、個々の利用者様に合わせたメニュー(編み物・パズルなど)を組み立てて関わっている。個別の外出支援にも少しずつ関わってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は家庭菜園をしたり、ぬり絵や貼り絵をしたり、それぞれ自分に合ったことを行ない、いきいきとして個性が活かされている。事業所の玄関から利用者の作品が飾ってあり、利用者がより楽しく生活できるよう、支援しているのが伺える。職員は出勤時、利用者には必ず笑顔で挨拶をすることを心掛けていたり、利用者がより満足できることを目指し、10月頃より「リトルサクセス(小さな気付き)」という取り組みを始めた。それは、些細なことだと思われがちが一瞬の笑顔や熱中している様子に気付き、記録として残すものである。職員全員がその記録に目を通して利用者がより楽しく生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念の説明を行い、日々理念を実践すべく、具体的な行動を考え、毎朝の申し送り時に唱和している。	理念を基に「明るく相手に伝わる挨拶」「したい介護をするのではなく、してほしい介護をする」「敬意を忘れない」この3点が倫理とされており、毎日読み上げ、職員が確認できるところに貼られていた。同じ目標へ向かい意識できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物時に挨拶をし、なじみの方も出来ている。 近所のレストランや喫茶店など利用の際に交流させて頂いている。	民生委員より地域の催し物の情報を得ている。行儀に参加することで利用者が楽しむと同時に顔を覚えてもらうきっかけとなっている。他に地域のボランティアも少しずつ増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地下鉄駅の側で、住民のつながりが希薄な所なので、地域への貢献は出来ていないが、散歩の途中の姿などを見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子を報告し、感想、意見をいただいている。情報も提供していただき、出来るだけ地域の行事に参加している。	運営推進会議は研修報告や行事・ケアの取り組みについて話し合っており、利用者の急変時、職員が落ち着いて行動できるように提案され改善している。また、会議の内容は事業所の全職員が内容を把握できるよう、ミーティングで伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会と連携を取ったり、包括支援センターより運営推進委員会に参加され、情報を提供していただいている。	生活保護を受けている利用者について、身元先や引越、入院時など市町村に電話や、出向いて情報のやりとりを行い連携している。市・区主催の研修にも可能な物には参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、拘束の意味を理解している。去年まではユニット入り口を施錠していたが、開錠できるようになった。	身体拘束について、マニュアルとしてあるが、実例を出し、具体的に職員同士が話し合いをしている。利用者をお願いする事、1つ1つの言葉についてどういう言い方をすべきか常に意識し、気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての認知症研修など身体的虐待以外のケースに関しても理解を深め、実践しようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて理解を深めている。3Fの利用者様には該当者なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、理解に誤解がないように、利用料や、起こりうるリスクに対し丁寧に説明を行っている。改定の場合は、説明を行い、書面をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日頃の様子をお知らせしたり、電話連絡を取ったりし、意見を言える関係作りをしている。又、玄関には意見箱を設置している。ご家族の意見を伺った時は、ミーティング等で話し合いを持つようにしている。	毎月、家族へ通信を出している。以前は集合写真を載せていたが、現在はより個人に近付けた写真となっている。家族からの要望や意見は職員間で話し合い改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、コミュニケーションを取るように心掛けている。又、ミーティング、個人面談等で聞く機会も設けている。	年に2回は個人面談をして、管理者は職員の声に耳を傾けている。具体的な話し合いをすることで誤薬に関してポーチに入れて薬袋を確認することが改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見は常に聞く体勢にあり、毎日の出勤時にも表情を観察し、職員の満足を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修ともに行なっており、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名会研の研修には、積極的に参加しており、又同企業内のグループホームの交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人にお会いし、生活状況を把握し、他利用者との生活になじめるように考慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人の状況等を伺い、当ホームのサービス状況を見ていただき、お話をし、相互の理解が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた時に、お話をお聞きし、緊急性のある場合は、他事業所を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、わかることの変化を観察し、その状態に応じた環境づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に日頃の様子を手紙でお知らせしたり、面会時にお話をし、ご本人の悩みを共有し、共に考えるようにしている。ご家族の協力が得られる方法があれば、依頼もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で、家へ帰ったり、友人が訪ねてくださったりする。又他ユニットの顔なじみの方との交流もある。	事業所が駅から近いこともあり、公共交通機関を使って馴染みの場所へ1時間くらいかけて出かけている。また、利用者の友人が事業所へ来たり親類が集まることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を把握し、席を考えたり、話の仲介をする等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いに行ったり、施設へ面会へ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べたい物、行きたい所、やりたい事等、常日頃お聞きしており、希望にそえるよう配慮している。又遠慮される方は、言葉かけを工夫し、参加出来るようにしている。	普段の会話や表情から意向を読み取り、リトルサクセス(小さな気付き)として記録して職員間で話し合い意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴、病歴、好きな事嫌いなこと等をお聞きし、これからの利用の参考にさせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル、表情観察で確認し、色々なアクティビティーに参加する中で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度カンファレンスを行い、意見を出し合っており、ご家族の意見等も反映させ、より良い介護計画を作成するよう努力している。	身体の変化や要望に応じ介護計画を見直している。必ず利用者と家族に意向を聞き、カンファレンスで職員、ケアマネージャー、場合によっては医師へ相談しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の行動、言葉を記録し、他にも気づきや提案等を記録できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要、希望に応じられる方法を常に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多種、多様なボランティア様があり、バス旅行、外食時にも参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に説明を行い、主治医を変更されるかた、今までの主治医に通院される方など、ご希望に添っている。	協力医は週二回の往診の他、24時間緊急時に相談できる体制を整えている。利用者が希望するかかりつけ医への受診も可能として、必要に応じ通院支援も行い結果は直ちに家族へ伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化がある時は、相談でき、処置を依頼することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、生活状況をお話したり、サマリーを提供。随時、電話での相談にも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行っている。日頃の様子をお話しながら、重度化しつつあることを認識していただき、ご家族と一緒に最善の方法を話あっている。	入所時に事業所の重度化方針について説明して同意を得ている。状況の変化に応じ家族と話し合いできる範囲で事業所での生活が続けられるよう協力医と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、消防署より訓練に来ていただいている。又日常においても、心配な方がいらっしゃる場合は、職員に個別指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行なっている。消防所に立ち会っていただける場合もあり、細かな方法を教えていただいている。非常食、飲料水を準備し、定期的に交換を行なっている。残念ながら、土地柄もあり、近隣との協力体制は出来ていない。	同じ建物内のデイホームと合同で避難訓練を行い、各フロアごとの避難経路を確保して全職員が協力し合い安全に避難できるよう想定して訓練している。防災備品を非常口付近に常備して定期的に点検している。	地域との協同関係を深めるため、事業所の避難訓練に地域住民が参加する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった言葉かけをし、業務上必要な連絡は、小声でするよう注意している。	プライバシー保護や接遇マナーの研修を行い、尊厳を持って支援している。日常生活の中で言葉の掛け方や羞恥心へ配慮するように直接注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	参加、選択を常に確認している。遠慮される方は、言葉かけを工夫したり、二者択一の質問をしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のペースを、利用者様中心に進めている。意思のはっきりした方の中で、おとなしい方が流されないように気配りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に、化粧水やヘアークリームをお出ししたり、同じ衣類ばかりにならないよう、一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望の献立をお聞きし、提供できる機会がある。出来る方、楽しめる方には、野菜を切ったり、盛り付け、後片付けに参加していただいている。	配食を利用して献立が決まっているため、週一回のフリーメニューの日を作り、利用者の希望を献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立により、食事を提供している。糖尿病、肥満症の方は量をひかえてお出ししている。水分も、一定量を摂取していただくよう声かけし、外出から帰ると必ずお茶をお出しする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア一介助の必要な方、声かけが必要な方等々状態を見極め、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入、間隔を見ながら、声かけを行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄リズムを把握してタイミングを見計らい声掛け誘導している。羞恥心を与えないよう言葉かけに注意して、さり気ない見守りや介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	確認できる方には、排便チェックを行い、冷たい牛乳を飲んでいただいたり、朝食後にトイレに座り、排便習慣がつくようにと、工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番の希望を聞いたり、入りたくない場合は、翌日に入っただけ等、ご希望をお聞きしている。	入りたい時間帯を聞いており希望に添える様配慮している。拒否がある場合はタイミングを見て声掛けしたり職員を変えて話をする等、入浴に気持ちが向く様な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣はりかいしている。うとうとしておられる場合は、横になっていただいている。あまり長くなると、夜眠れなくなるので、時間を見計らって声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量については、十分に理解しており、服薬時に、名前、日付、朝、昼、夕と声を出して読み上げ、飲み込みを確認している。変更があったときは、申し送りを行い間違いのないよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物を楽しみにしている方、家事仕事のお好きな方等ご希望はお聞きし、楽しんでいただいている。嗜好品は皆さんにお聞きし、おやつのお時間にお出ししたり、買い物へ行き購入される方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、買い物などへ出かけていただいている。又、友人ご家族と一緒に、食事、散歩に出かけられる方もある。	毎日散歩やスーパーへ買物に出掛ける機会を設けている。利用者の希望で八事の興正寺へ個別の外出支援を行ったり、家族に相談し面会時に喫茶店に出掛けたりと、希望に添った外出に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っておられる方、買い物時にお金を入れた財布をお渡しする方などがあり、好きなものを買っていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける機会は作っているが、手紙は、書けない方が多く実現していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、利用者様と一緒に飾るものを作り、季節を感じられるようにしている。室温や、障害物等にも配慮している。	リビングではソファでくつろいだりダイニングテーブルで工作やレクリエーションを行う等、用途に合わせ多様に過ごせる生活空間となっている。利用者が作った季節の貼り絵や行事等の写真を飾り、アットホームな雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好みの場所で仲のよい方どうしで、おしゃべりをされている。ご自分の居場所を、それぞれが確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お好みの家具を持ってきたり、ご自身で作った作品などを飾ったり、ご本人らしい居室になるよう、ご家族とも相談し、工夫している。	利用者の使い勝手が良いようにベッドや家具は自由に配置して思い出の品や写真やなじみの家具等を持ち込み、個々にくつろげる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	出来ること、わかることの変化を観察し、その状態に応じた環境づくりを心掛けている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371600426
事業所名	グループホームふれんど

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2) 民生委員より地域の催し物の情報を得ている。参加することで地域の人に顔を覚えてもらうきっかけとなっている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議は研修報告・行事・ケアの取り組みについて話し合われており、利用者の急変時、職員が落ち着いて行動できるように電話のそばに簡素化した対応マニュアルを置いたらどうかという提案を受けて今後は実現する予定である。また、議事録は事業所の全職員が内容把握できるようにミーティングで伝えている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4) 生活保護を受けている利用者について、身元引受人の状況や引越、入院時など市町村に電話や、出向いて情報のやりとりを行っている。職員は市・区主催の研修にも参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6) 毎月、家族へ通信を出している。以前は集合写真を載せていたが、現在はより個人的な写真を載せている。ケアプランの説明や利用者の変化、など家族に連絡をとって情報収集している。年 1 回家族の食事があり職員と親交を深めている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去 1 年間に 6 回以上開催されている。	○
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙 4 の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去 1 年間に 6 回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙 4 の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の 2、3、4、6 の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目 2、3、4 については 1 つ以上、外部評価項目 6 については 2 つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第 85 条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年 2 回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年 2 回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。